桂坂

19980101
[9710]
総49号

発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

念頭のご挨拶

桂坂自治連合会　会長　菊池　潤治

桂坂学区の皆様

明けましておめでとうございます

旧年中は何かとご支援を賜りお蔭様で自治連合会の運営も順調に推移し感謝しております

寅年を迎え「元気な桂坂」を構築したいものと心新たにしております　本年も宜しくお願いいたします

先ず、昨年の年頭に際して申し上げました重点三項・目について、その後の経過をご報告いたします。

(1) センターゾーンの開発について

スーパー・イズミヤは、この春から着工し、遅くとも来春（平成一一年）にはオープンすることになりました。

(2) 交番、保育所・児童館等

公共施設の建設について

交番は一月中旬、建設に着手し、三月には竣工の予定です。

保育所・児童館も昨年中に子どもワークショップを含めて九回のワークショップを終え、来春の開所を目指し建設するとのことです

東部地区の郵便ポストも近く設置される見込みです。

(3) 消防団の設置について

昨年八月、一五名の団員が誕生し目下、大枝消防分団において厳しい訓練を受けていますが、一〇月には桂坂消防分団として独立することになっています。

本年は、このうちのほとんどが実現される、画期的な年となりそうです。

(4) 学区のその他の主な出来事

東部地区に「もみのき自治会」がめでたく発足しました。

自主防災会においては、各種団体を主軸とする専門部会を設立したほか、災害時に救出を希望する方の実態把握、さらには総合防災訓練を実施して四五〇人規模の避難誘導訓練・炊き出しを行うなど、実践的に取り組みました。

■ 記念事業

さて「桂坂学区創立一〇周年」を迎えるにあたり、平成一一年度に記念事業を予定しており、昨年一二月六日に、この事業推進のために「桂坂学区創立十周年記念事業実行委員会」を設立したところです。

記念事業のうち最重点のものは、「桂坂消防分団器具庫」と「自治会館」の建設です。

桂坂における「総合」的な「自治会館」の必要性については、平成五年の会長就任以来、つねに総会の議案書に掲げ、説いてまいりました。今回、両館合築の形をとりますが、ぜひともこの懸案の事項に関してご理解とご協力をいただきたいと存じます。

ここでその建設の趣旨を説明させていただきます。

■ 建設の趣旨

これまで、「安全・安心の街づくり」のため、あらゆる対策を講じてはいますものの、もし今、大地震が発生したら、私たち、ただ茫然として何もできないのではないかと思います。また、多くの学区民の方々も右往左往の混乱状態となるのではないかと懸念されます。

自然の脅威を眼の前にした時、混乱に拍車をかけ、事態の収拾を妨げるのは、総合的に情報を収集したり、的確な情報を発信したり、消火、救出、避難、補給をする「拠点」がないことに因ります。

待望の桂坂消防団が誕生した今、団員の日常活動の「詰所」や、強力な動力ポンプ（消防局から配備予定をはじめ、防災器具を管理収納する「器具庫」は、災害時に不可欠の「拠点」として、どうしても早期に完備しておかなければならないところです。

震災には「待った」がありません。根こそぎ吹っ飛ばされ、人命にかかわる問題です。災害の発生時には被害を最小限度にとどめ、最速に立ち直る「手立て」を常日頃から用意しておかねばならないのです。

また、「自治会館」は、「器具庫」の2階に設置、非常時には災害対策の「指揮拠点」として、一連の活動が効果的に実施できるよう、その体制を整えておくことが肝要です。

それだけでなく、自治連合会や自治会、各種団体などの日常活動、ならびに文化的活動の重要な「拠点」として有効に活用されるべきです。

■ 建設資金にご協力を

すでに「桂坂消防分団器具庫&自治会館」の「建設資金」に関しては、ご協力をお願いする趣意書をお届けさせていただいていることと存じますが、他学区には大抵、「指揮拠点」となる「会館」が完備されております。

先にも触れましたが、この桂坂の新しい街づくりのために、交番は京都府が、保育所・児童館は国と京都市が、イズミヤは企業独自が、それぞれその資金を投入して建設してくださいます。

社会的にも経済的にも厳しい時期であることは承知していますが、地元の私たちが自らの手を汚さずに拱手傍観していたのでは、立派な「街」はできません。

消防器具庫、自治会館の建設に私たち桂坂学区民の総力を結集し、活気のある「元気な桂坂」を構築しようではありませんか。

早々から募金のお願いをして誠に恐縮に存じます。

この一年、皆様のご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

私たちの消防器具庫・会館です

一口［三〇〇〇円］以上の募金を

去る一二月二一日、「消防器具庫・自治会館建設」を推進するための「決起集会」が、各自治会の役員・会員の方々、各種団体の方々など約一〇〇名の参加のもと、ふれあい会館で開かれました。

この器具庫・自治会館の建設資金をめぐって、例えば、各戸一万円の募金をせねばならないらしいとか、自治会館ができても各種団体などは利用できないそうだ（付記Ⅰ）とか、三千八百万の建物なんて贅沢すぎる（付記Ⅱ）とか、様々な噂が飛び交うようでは、一月より行動を開始する募金活動に支障を来すのではないか、それならば、募金活動に携わっていただく方や学区民の方を対象に決起集会を開いて、建設の趣旨をしっかりと説明し、募金活動の気運を盛り上げたほうがよかろうということでこの催しが急遽、設定されました。

菊池実行委員長の趣旨説明（各戸配布の『趣意書』と年頭のご挨拶をご覧ください）と続いて質疑応答。

最後に、「この器具庫・自治会館の建設は、その必要性を理解してもらえるかどうかにかかっている」ので、「学区民の方々のご理解を得られるよう、皆さんのご協力とお力添えをお願いしたい」という川上建設推進部会長の決意表明と要請がありました。

ところで、問題の建設資金です。目標額は三千八百万円。『趣意書』記載の通り、京都市から八百万円、消防局から四百万円が補助されますが、残りの二千六百万円余りは私たちの手で何とか都合しようということになります。

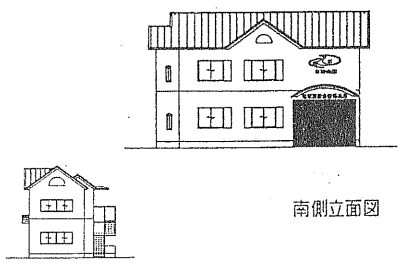
一口三〇〇〇円で、一世帯当り、一口以上の寄付をお願いしたいというのが実行委員会の要望です。

すでに実行委員会の役員は、桂坂にご理解ある企業や篤志家をお訪ねして建設資金調達に協力願う活動を開始しておりますし、私たちの日常活動の拠点を是が非でもつくろうという熱意から資金調達の様々なアイデアも出されております。

今後ともこの広報で、記念事業の進捗状況や建設資金等に関する情報をお知らせしていく予定です。

【付記Ⅰ】――自治会館の2階は約三十二畳で決して広くはありませんが、各団体の会合に利用できます。また、調達資金にゆとりが出来て印刷機器などが設置されると、各団体の広報・配布物の印刷は便利になるばかりでなく印刷代も少なくなるはずです。因に、広報『桂坂』はふれあい会館のご好意に甘えて印刷機を拝借し、毎号自分たちで印刷します。一回の費用は、二千五百枚の紙代（約三千円）程度です。

【付記Ⅱ】――会館の建設用地は市からの提供です。しかし、用地内に立つ樹木の移植、埋設管の移動、消防器具庫前の歩道と車道との段差をなくする工事、用地が傾斜地であることなど「耐震構造」の建築費以外の費用も予想されます。



南側立面図

自治会紹介

けやき自治会

会長　熊倉　光雄

「けやき」と名称がついて付いて早、三年。自治会は、小学校の右側一帯で、中央に山の辺公園、隣接して自治会館があります。

現在一二五世帯（会員）が居住し、会員数も年々増加の傾向をたどっています。自治会が設立されてから、まだ日が浅く、役員も四苦八苦…。しかし、「出会いや、語り合う機会を大切に！」を目標としており、事ある毎に多数の参加もあって、まとまりのある会になりつつあるのではないかと思います。

主な行事を紹介します。

まず、夏祭りでは、人形劇を鑑賞しました。これは、子供さんはもちろん大人にも大変好評で、二年続けて鑑賞しました。

秋の取り組みとしては、昨年は柿がりを実施しましたが、今年は少し時期を早め、雰囲気を変えて、真夏の夜空の下での屋外パーティーを試みました。

ソバ・肉の焼き具合い、味も上々で、大人気。ビールも進み、日頃ふれあうことのない人との交流も深まり、互いに親密度も増し、けやきの会のまとまりは、なお一層強くなった様に思われました。

（その時の様子は、写真展を開き、皆さんに見てもらいました。）

冬は、クリスマスリースを作ることにしました。参加者は二〇名足らずでしたが、和気あいあい、一つの作品に取り組む姿は心和むものがあり、出来上がった作品はクリスマスの主役となるのではないかと思われます。

以上、主な一年間の取り組みを紹介いたしました。これからも益々けやき自治会の皆さんの希望を、交流を深めながら発展させていきたいと考えています。

一二月一三日、五回目の桂坂保育所・児童館整備計画ワークショップが、桂坂小学校「読書の森」で開催されました。当初、四回の予定であったワークショップですが、せっかくここまで住民参加で計画してきた保育所・児童館なので、園庭、外構にも住民の声を生かすべく、今回のワークショップ開催となりました。

最初に自治連合会の菊池会長から、「景気も思わしくなく、市の予算も大変なこの時に桂坂に立派な保育

楽しかった ワークショップ

子どもの夢 はぐくむ
児童館・保育所を

所・児童館が設立されることに感謝し、精一杯、良いアイデアを出しあいましょう」と挨拶があり、三つのグループに分かれて討議が始まりました。

各々のグループで、予め用意された園庭に関する約二〇のコンセプトから五つを選びます。

私たちのグループが選んだのは、「安全に遊べる園庭」「子供が自分で遊びを見いだせる園庭」「四季が感じられる園庭」「のびのび遊べる園庭」「土に親しめる園庭」でした。

次にそのコンセプトに沿うてジャングルジム、鉄棒丸太小屋、築山、花壇、外構用樹木などの模型を配置していきます。

屋上には、丸太小屋、一輪車トラックを用意し、保育所の園庭にも季節を感じさせるキウイや柿（有名な大枝の柿）を植え、ジャングルジム、どろんこ遊び用の砂場、うんてい等を所狭しと並べ、南東の端には築山を造り、さぞかし、ここからの眺めは素晴らしいだろうと話し合いました。童心にかえって、とても楽しく作業を進めました。「夏に開かれた『子どもワークショップ』のメンバーにも参加してもらったら良かったなあ」と思いました。

模型が完成すると、各グループから力作の説明がありました。「吹き抜けにシンボルツリーを配し、その成長を楽しもう」「園庭のカリンは、風邪をひいた子どもにあげるカリン酒を作るため」「せせらぎで水遊びも楽しめる」といった楽しいプランが次々と披露されました。

資金面や安全面の制約もあって、どのアイデアが採用されるかは分かりませんが、この建物が子どもたちに喜んでもらえる、新しい夢を育む保育所、児童館となるよう期待してやみません。ワークショップの開催にご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

編集委員 牧野美佐子

保育所・児童館 一一年三月竣工の予定

「保育所・児童館建設」のワークショップが終り、竣工までの日程が示されました。

建設に関する予算獲得の交渉は九月段階で既に始めており、平成一一年三月竣工を目指して工事――。

先ず平成一〇年三月までに詳細な設計図を作成し、二月市会に上程、承認を得（三月）、その後、国庫補助対象の事業なので厚生省と協議。六月、内示段階で入札による業者の決定。

七月着工、平成一一年二月末に本体工事の完了。引続き外構工事、三月竣工という段取のようです。

環境と暮らしを守る
京のアジェンダ21
――連続ワークショップ in 洛西――

去る一一月八日(土)午後洛西支所の会議室において「京（みやこ）のアジェンダ21・連続ワークショップ in 洛西」が開かれました。

一九九二年、リオデジャネイロで開催された地球サミットで、21世紀に向け持続可能な、発展のための人類の行動計画「アジェンダ21」が作られましたが、これはその地域版。環境問題の学識者や市民、事業者の参加するこの委員会では、京都市で実施すべき地球環境保全のための共通の課題や課題解決のための手だてなどが話し合われ、市民生活、事業活動、行政施策のパートナーシップづくりについて検討されています。

洛西ニュータウン、大原野地域、桂坂地域の自治会各種団体、PTA、地域女性会関係の方や一般住民に声がかけられ、自主的な参加のもとに開かれました。参加者は五〇数名。分かれた八つのグループ毎にコーディネーターが一名で話し合いが進められました。

みんなで洛西地域に〈残したいもの〉〈要らないもの〉〈欲しいもの〉を考えておのおの紙片に書いて一枚の大きな紙に貼って一つのパネルを作り、グループ毎に発表しました。

〈残したいもの〉は緑。どの地域にも緑、でした。

〈要らないもの〉ではやはり、多い不法駐車の車。駐車場の確保とともに、公営の駐車場があれば、という意見もありました。

〈欲しいもの〉では、地下鉄。一日も早く通ってほしいというのがみんなの要望。それと共に、豊かなまちにするために、自由に使える「多目的ホール」（展示会や発表会などの開催可能な）があればいいのにということでした。

初めてという人たちがほとんどでしたが、それが実現するかどうかよりも、自分たちの思っていることを自由に発言できたことに快い感動を覚えました。

便利で快適な生活を目指せばそれだけ環境に反する現象も出てくるようです。ゴミ問題や環境問題を考えるには、子どもの頃からの環境教育も必要でしょうし、また、私たち一人一人の意識改革も、事業主の協力も不可欠だと思われます。住みよい環境をつくるためには、他人まかせではなく、そこに住む私たち住民がその重要性を声を大にして訴えていくと共に、行動に移して行くことが必要だということを教えられました。

編集委員 井ノ崎重美

ソフトテニス 一緒に参加してみませんか

一二月七日(日)、亀岡運動公園テニスコートで開催された「第7回小学校区対抗ソフトテニスフェスティバル」において、桂坂学区チームが二度目の優勝を果たしました。

一二チームが参加した今回は、四五歳以上の「シニア」、「女子」、「男子」の三ペアによる団体のポイント戦で行われました。

まず、三チームずつに分かれての予選リーグを全勝で危なげなく突破した後、決勝トーナメントの準決勝では前回優勝の強豪太秦学区を、決勝では西京極学区を共に2－1で破り、二年ぶりの栄冠を手にしました

当学区では、「体振」としての「ソフトテニス」の活動はなく、二年程前からテニス好きの者が声を掛け合って、年に二回、大会に出場しています。

テニス好きの方、次の大会には一緒に参加してみませんか。

連絡は、はなみずきの西村まで ☎333－0977

ふれあいの里「沓掛寮」から お年寄りのみなさまに
新年あけましておめでとうございます

昨年末に「介護保険法」が成立し、平成一二年度に向けて新たな高齢者福祉の運営準備が始まりました。

沓掛寮・在宅介護支援センターは、福祉の広報マンとして、皆様方のお宅を訪問させていただき、また、ご来所、電話などでお年寄りの福祉に関するいろいろなサービスの紹介、相談、お申し込みなどをお受けしています。

本日は、日帰りで一日を楽しく過ごしていただく沓掛寮デイサービスセンターをご紹介します。

おおむね六十五歳以上の方がお食事や入浴を共にし、和やかな交流のひと時を過ごしていただくところです。

一週間に一回、決まってお宅までお迎えに行き、夕方にお送りいたします。利用料は、一回一〇〇〇円です。只今なら、申し込まれてからお待ちいただかずにすぐご利用いただけます。

ご希望の方は、支援センターへご連絡ください。申請のお手伝いや見学のご案内をいたします。

相談員 井上
看護婦 佐々山
☎331－7387

ふれあい会館 案内

家庭介護講座 ――全8回
第1回 1月20日(火)
午後1時～3時
長続きする介護のために
第2回 1月27日(火)
痴呆性老人とともに
山添 洋子氏
第3回 2月3日(火)
痴呆の理解
川合 一良氏
第4回以降のテーマ
日常がリハビリ・楽しく食べよう・排泄の自立・入浴の工夫・上手な制度の利用
□ 受講料は無料

初級講座
午前：寝たきり予防・福祉制度を知る・ビデオ学習
午後：シーツ交換・洗髪・更衣 まとめ
日程 1月23日・2月6日・2月20日・3月6日
いづれも金曜。都合のよい日に

骨そしょう症教室
日程 2月14日(土)
午後1時～3時
骨そしょう症予防のために［運動編］廣中主司氏
骨そしょう症予防のために［栄養編］府栄養士会
□ 受講料五〇〇円

新春打ち初め会 囲碁級講座
日 時 一月二〇日(火)
10時～16時
会 場 ふれあい会館「大枝の間」
講 師 加納明生氏
参加費 二千円（含昼食代）
定 員 三〇名（先着順）

日文研 案内

公開講演会
比較の観点から みた日本文明
日時 一月一二日(月) 13時30分～16時
場所 日文研ホール
講演 日本文明のオリジナリティ
上山春平 京都市立芸大学長
枢軸文明と非枢軸文明
S・N・アイゼンシュタット（ブライ大学名誉教授）
入場無料・定員五〇〇名

公開セミナー
シルクロードの音色
日時 二月七日(土) 13時30分～
場所 日文研ホール
演奏・講演
●イランの民俗楽器演奏
●「サントゥールの歴史とペルシャの文化」
ブーリー・アチビアン氏
●中国琵琶の演奏
●「中国琵琶の響きは国境を越えて」
涂 善祥氏
シブラク撃 矢野留美氏
受講料 九四〇円
申込み 日文研管理部庶務課
☎335－2016
Fax 335－2091